



東北 復興日記

まだまだ



▶▶▶ 215

麗澤大学 日本語・国際コミ
ュニケーション専攻2年

ムニセ・オゼンさん

辺は荒れ果てた廃墟のようでした。住宅、車、自動販売機、ショッピングセンターなど、東日本大震災の被害を受けた時のまま凍結しているようでした。「怖かった」というのが正直な感想です。

私は東京の大学に通つトルコ人留学生です。前回登場した城西大のスヘイラさんとは旧知の仲。福島県南相馬市で被災者の支援活動を続ける「ベテランママの会」代表の番場さち子さんの誘いで先月、福島第一原発周辺と第二原発を訪れた時も一緒でした。

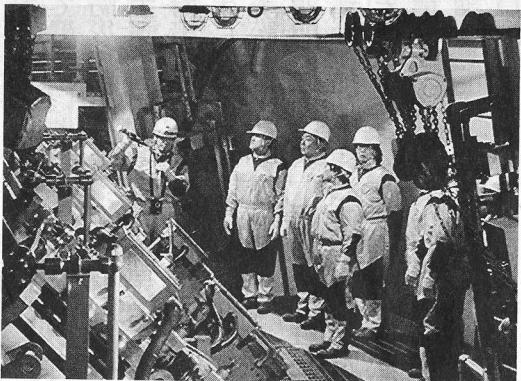
友人の多くは欧州や米国に留学しましたが、私は、技術力が高

トルコの原発計画心配

く、美しく、安全性も高い日本を選び、二年半前に来日しました。

世界が注目した重大事故の現場を自分の目で見たい。今回、そんな思いで福島行きを決めました。新幹線で向かう途中「一体どんなことがあるのかしら」と複雑な気持ちでした。友人から「原発に行つて大丈夫？」と心配されましたから。

原発が立地する帰還困難区域周



まりました。

見学の後、最も心配になったのは母国の原発計画です。ともに地震が多い国ですが、トルコの地震対策は日本のように進んでいません。トルコ人は本当に論理的に自国の災害状態を考えて、原発を造るか造らないのか決めるべきだと思います。水力や風力のような自然エネルギーを使えばいいのではないのでしょうか。

東京電力の方から「地元の高校生も見学に来て熱心に勉強してくださいました」と聞きました。ぜひ地元だけでなく、各地の大学生や若い人たちが原発を見学して、帰還困難区域などのことを考えて欲しいと思います。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。